

パーキンソン病で発症し、幻覚・不眠を呈したレビー小体型認知症の1剖検例

おか だ かず のり¹⁾ たか よし ひろ ゆき²⁾ こう の なお と¹⁾
 岡 田 和 悟¹⁾ 高 吉 宏 幸²⁾ 河 野 直 人¹⁾
 やま がた しん ご³⁾ いし かわ のり よし⁴⁾
 山 形 真 吾³⁾ 石 川 典 由⁴⁾

キーワード：認知症を伴うパーキンソン病 (Parkinson's disease with dementia; PDD),
 レビー小体型認知症 (Dementia with Lewy body disease), 幻覚, 不眠, 病理

要 旨

症例は89歳女性。81歳時より左上肢の振戦，歩行障害，仮面様顔貌等の症状出現し，82歳時当院初診。左安静時振戦，小刻み歩行，すくみ足，易転倒傾向，姿勢反射障害を認め，パーキンソン病の診断にて内服治療を開始。83歳秋より幻覚・せん妄症状出現し，87歳時には強い不眠等もみられた。89歳時心肺停止状態となり当院救急搬送され，保存的に加療を行うも腎不全出現し永眠された。剖検所見では，脳幹で黒質の色素細胞減少を認め，残存神経細胞内に HE 染色で脳幹型レビー小体を認め， α -synuclein 染色でも陽性細胞が認められた。大脳では帯状回・島回などの前頭葉，扁桃体などの辺縁系に多数の皮質型レビー小体を認め，側頭葉や中心後回等の皮質にも比較的多く認められた。これらは α -synuclein 染色陽性でレビー小体型認知症の所見に一致した。大脳全体で神経原線維変化や老人班の増加は認められなかった。認知症を伴うパーキンソン病とレビー小体型認知症の臨床及び病理所見についてその異同を考察した。

症 例

症例：89歳，女性。

現病歴および臨床経過：81歳時より左上肢の振戦，歩行障害，仮面様顔貌などの症状出現し，徐々に増悪。82歳時当院初診，左安静時振戦，小刻み歩

行，すくみ足，易転倒傾向，姿勢反射障害認め，パーキンソン病の診断にてレボドパ，ペルゴライド内服開始し，症状改善あり。83歳秋より立ちくらみのためドロキシドパを追加。その頃より，幻覚・せん妄症状出現し，「夜中に人がいる」「隣で寝ている」「つかまえられる」などの発言あり。抗パーキンソン薬の増減で幻覚出現と無動などのパーキンソン症状の増悪を繰り返していた。87歳時には，幻覚，不隠，強い不眠等あり，入院で薬

Kazunori OKADA et al.

1) 大田市立病院神経内科 2) 島根大学医学部内科学第三

3) 同 大田総合医育成センター 4) 同 器官病理学

連絡先：〒694-0063 大田市大田町吉永1428-3